

地域包括ケアに関する取組み

博多区

令和5年3月末現在

○概況

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】 博多区は、JR博多駅、博多港、福岡空港を抱える陸・海・空の玄関口であるとともに、国道3号が区内を縦断する交通の中核となっている。 博多駅を中心とする北部の都市部と、都市周辺、南部の郊外住宅地に大別される。生活の便が良い地域が多いが、空港の東側の丘陵地など比較的不便な地域もある。 【高齢者の状況（高齢化率等）】 高齢化率は市の中で最も低い、区内の地域間での差は大きい。高齢者の世帯状況は、高齢者がいる世帯のうち、43%が単身世帯(R2)であり、市内で2番目に高い。 また、特に博多駅周辺はオートロックマンションが多く、見守りや地域へのつなぎ支援が難しい。 【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】 社会資源・地域コミュニティともに地域の差は大きい。都心部は特に、住民の関係性が希薄化しており、地域での見守りや支援体制がとりにくい状況にある。同職種の専門職同士のつながり強化についても、単年毎にリーダーが交替する地域もあり、「切れ目のない」体制づくりが難しい。 博多区では地域支援を目標とした圏域単位の事業所ネットワーク（令和5年3月末6圏域7事業所ネットワーク）及び、ネットワーク間での情報交換や支え合いを目的とした事業所ネットワークの連合体「ワンチームHAKATA」が結成されている。令和2、3年度はコロナ禍で地域活動が縮小し、事業所ネットワークの活動機会も減少していたが、令和4年度地域活動の再開とともに、事業所ネットワークの活動も増えてきている。今後も、地域の特性に応じて、地域活動、特に介護予防に関して力が発揮できるよう、支援していく。	人口（人）	229,705
	高齢者数（人）	42,835
	高齢化率（%）	18.6
	小学校区数 （自治協議会数）	18 (22)
	いきいきセンター 圏域数	8

○地域包括ケアに関する現状と課題

○博多区では単身高齢者が多く、支援が必要な高齢者の把握に努めるとともに、支援者の抱え込みや負担感の軽減を図り、本人の意向に添った支援が必要である。また、対応力向上のためにも同職種の専門職の横のつながりの強化が必要である。

○令和4年度はコロナ禍は続いていたが、オンラインの活用などにより、取組みの継続性を図ることに尽力した。

○地域役員の高齢化や担い手不足など、個々の高齢者を支える力が弱まる中、医療と介護の事業所が圏域毎に事業所ネットワークを立ち上げ、「地域のためにできることをできることから」のスタンスで活動している（6圏域7事業所ネット）。行政は、各ネットワークが地域課題やニーズを把握し、地域とつながることを目的に、地域包括支援センターとともに後方支援を担っていく必要がある。

○区レベルの事業所ネットワーク「ワンチームHAKATA」が、圏域内のネットワークだけで解決できないことを圏域を超えて協力しあえる体制づくり、新規の事業所ネットワーク立ち上げ支援などを担うことで、博多区全域で、生活支援・介護予防の取組みの強化につながることを期待される。

1. 令和5年度取組みの中で、特徴あるもの

取組内容

（1）区歯科医師会と協働し、オーラルフレイル予防の支援充実を目指す

オーラルフレイル予防の健康教育を全校区で展開しているが、チェックリスト高得点者に対するフォロー体制が確立されていない状況である。そのため、博多区歯科医師会と協働でオーラルフレイルチェックリスト高得点者に対する受け入れ可否の状況、介護予防活動の協力依頼について意向調査を実施し、オーラルフレイル予防活動の支援充実を目指す。

【取組内容】

- 博多区歯科医師会と協働でオーラルフレイル予防に関する歯科医院の協力可否の意向調査を実施。
- 受け入れ可能と回答した歯科医院に対し、地域の介護予防活動のチラシ配架等、普及啓発の協力を依頼。

オーラルフレイルを予防しよう！

チェックリストの結果を基に、危険性のレベルを判定します。

危険性	0～2点	3点	4点以上
危険性のレベル	危険性は低い	危険性あり	危険性が高い

オーラルフレイル対策

歯の健康は、全身の健康を支える大切な役割を果たしています。歯が弱ると、食べる楽しみや話す楽しみも減ってしまいます。歯を健康に保ち、オーラルフレイルを予防しましょう。

- 歯磨き**：歯垢を落とすことで、虫歯や歯周病を予防します。
- 歯医者さんへ行く**：定期的な検診で、歯の健康状態を確認しましょう。
- 栄養バランスのよい食事**：歯を強くするだけでなく、全身の健康にも良いです。
- 水分をこまめに摂る**：唾液を分泌させることで、歯を自然に強く保ちます。
- 歯のケアグッズ**：歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシなど、自分に合ったグッズを使いましょう。

（2）「校区プラン」を活用した、継続した支え合いの取組みを支援

自治協を中心に校区住民で作成された「校区プラン」の取組みを、定期的に振り返り、校区ぐるみの取組みが継続・充実されるよう、支援を進める。

【博多区校区プラン作成 18校区・地区】

【校区課題の共有】

高齢者
地域支援会議



支援・協力

【見える化】

「校区プラン」づくり



【プランの活用】

- 地域の研修会などでの「校区プラン」のふりかえり
- 健康福祉のまちづくり懇談会での「校区プラン」を利用した意見交換



【取組みの継続】

地域の実情に応じて「校区プラン」の取組みを進める

区役所、区社協、包括支援センター、医療・介護事業所ネットワーク

2. 令和4年度の取組状況

(1) 地域ケア会議の状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

【検討内容】 認知症がある単身生活の方、安否確認が必要だが介入が困難な方、家族へも支援が必要な方、精神症状が強い方への支援、自立支援の観点での支援 等 【参加者】 医療、介護の専門職・民生委員・町内会長 等

個別支援会議開催状況・会議回数：80回（うち、介護予防型個別支援会議 19 件）

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

■「校区プラン」活用による地域保健福祉活動の推進

- 地域の研修会などでの「校区プラン」のふりかえり
- 見守りマップ更新に合わせて実施
- ふえあいネットワーク研修会で実施
- 防災ワークショップの中で実施 など

- 健康福祉のまちづくり懇談会での「校区プラン」を利用した意見交換
- 校区の保健衛生概況
- 校区の事業報告・計画
- 校区プラン・地域包括ケアの取組み



■ 地域の支えあい活動の充実

- よかトレ実践ステーション登録 141か所
- ふれあいサロン開設：52か所
- 見守りマップの作成・更新 18校区地区で作成

高齢者地域支援会議 開催状況
 開催校区：21校区（地区）、延べ41回 ※博多区：22校区（地区）
 【内訳】・「校区プラン」ふりかえり：11校区（地区）、延べ11回
 ・「健康福祉のまちづくり懇談会」：21校区（地区）、延べ21回
 ・地域包括支援センター主催：8校区（地区） 延べ9回（地域の見守り体制等の意識調査を実施、その結果と考察を地域にフィードバック、この結果を生かした対面での高齢者地域支援会議を開催。）

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

(1) 施設型よかトレ実践ステーションの拡充

介護予防活動を継続できる環境づくりの一つとして、地域活動の拠点である公民館を活用したより身近な「施設型よかトレ実践ステーション」を創出。公民館で「運動から始まる認知症予防教室（3回コース）」を開催し、教室終了後は「施設よかトレ実践ステーション」として登録するなど、介護予防活動の継続を図った。

令和4年度に目標としていた公民館の施設型よかトレ実践ステーションが新規で4か所創出し、R4年度、10か所公民館「施設型よかトレ実践ステーション」として登録。

活動の継続に向けて今後も支援を続けていく。

(2) 医療機関・居宅介護支援事業所を巡回

顔の見える関係づくり、及び個別支援に活用する博多区医療と介護の事業所情報整理、福岡市の様々な市民啓発ツールの提供を行うことを目的に、認知症初期集中支援チームやネット支援員が認知症相談医やサポート医が所属する医療機関や居宅介護支援事業所を巡回。

(3) 多職種リーダー会議、及び多職種協働で市民啓発講座の開催

認知症に関する講座を多職種協働で開催。

圏域連携会議
開催状況

5回（博多第1、3、6、7、8）圏域内の地域リーダーと専門職の顔の見える関係づくり、互いの取組みの共有の機会となった。各圏域、3年ぶりの対面開催となり、地域や事業所職員間で互いに顔の見える関係づくり、互いの取組みや役割を理解し合う機会となった。多問題家族や支援を拒否する単身高齢者については、地域と様々な機関がつながりあって連携して支援を行う必要性を共有する機会となった。

④ 区レベルの取組み（特徴ある取組み）

区地域包括ケア推進プロジェクト会議（継続）2回/年

関係する所属の課長・係長による会議を年2回開催、関係各課の取組みを共有し、意見交換を行うことで、区内の連携を深めている。

【地域保健福祉課、健康課、福祉・介護保険課、総務課、企画振興課、地域支援課、生涯学習推進課】

在宅医療に関わる専門職リーダー会議（新）2回/年

多職種連携研修や市民啓発講座の企画、打合せを目的に、在宅医療に関わる多職種リーダーが集って、各職種の役割や連携について意見交換を行う機会を博多区としてははじめて実施。様々な制度や地域との関係などをともに学び合う機会となった。

区地域包括ケア
推進会議開催状況

区地域包括ケア推進会議1回
 部会①在宅医療・介護部会：1回 ②権利擁護部会：1回 ③生活支援・介護予防部会：1回
 コロナ禍における各団体の活動、対面の機会が減っていることでの課題や解決のための工夫などの情報交換を行った。支援を拒否するキーパーソンがいない単身高齢者や複合課題を抱える世帯への支援が増える中、団体間の連携が必須であることも確認しあった。

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組み	具体的内容
多職種連携研修会	3回開催（全回オンライン開催）
同一業種による連絡会開催	
① 介護支援専門員会（ケアマネット博多）	① 定例会、研修会ともにオンラインで開催
② 訪問看護ステーション連絡会（ナースネット博多）	② 定例会4回（集合型）
③ 医療ソーシャルワーカー連絡会	③ 定例会オンライン2回、書面1回開催。
在宅医療に関する市民啓発	1回「認知症」をテーマとした基調講演とシンポジウム
事業所ネットワーク定例会（圏域毎）	6圏域7ネットワークがそれぞれに定例会を実施
事業所ネットワークリーダー会議	4回開催
障がい者支援機関とのネットワークづくり	2回開催（障がい者基幹相談支援センター、地域包括支援センター、障がいサービス事業所など）
校区情報交換会	2回開催。地域支援課地域支援係長、校区担当保健師、地域包括支援センター、区社協の4者が各校区毎に地域や活動の情報を共有し、より連携した地域活動への支援を目指す